

（左から）松原 一穂 氏、矢野 厚登 氏、佐久間 隆 氏

MAC&BP コンサルティンググループ

BizRobo!導入で初年度から500時間を削減、繁忙期の負担を大幅軽減。単純業務を効率化し、お客様に求められるサービスの拡充へ

CORPORATE PROFILE

社　名

ＭＡＣ＆ＢＰコンサルティンググループ
ＭＡＣ＆ＢＰミッドランド税理士法人

事業内容

資産税・事業承継のコンサルティングや医療・介護分野における開業・経営サポート

ウェブサイト

https://www.mac-g.co.jp/

- お話を伺った方 -
ＭＡＣ＆ＢＰ ミッドランド税理士法人
代表社員　矢野 厚登 氏

株式会社ｂｐコンサルティング
代表取締役　佐久間 隆 氏
ITソリューション部 チーフ　松原 一穂 氏

Highlight

- ☑ 確定申告期の人手不足の解消と残業時間の削減を目的としてRPAを導入
- ☑ 半日で作成したロボットが一業務で年間200時間を削減、高い費用対効果を示す
- ☑ 今後はグループ全体への普及を進め、RPAで業界をリードする存在を目指す

2020年12月に資産税・事業承継のコンサルティング実績を持つＭＡＣミッドランド税理士法人と、医療機関やクリニックの開業・経営サポートを行う税理士法人ブレインパートナーが合併して発足したＭＡＣ＆ＢＰミッドランド税理士法人。2019年春より前身のブレインパートナーのグループ企業にあたるｂｐコンサルティングがRPAの導入を主導し、9月にBizRobo!を正式導入した。導入の狙いは、確定申告を行う繁忙期の人手不足の解消と残業時間の抑制。RPAツールの選定では既存システムとの相性や、直感的にロボットが作成できることを基準とした。導入後はデータ転記やPDF出力など、件数が膨大な単純作業を優先してRPA化。初年度から合計500時間の削減を達成し、社員の精神的負担の軽減などの副次的な成果もあがった。2021年度はRPA化が進むＢＰ医業本部で2000時間の削減を目標に掲げる他、グループ全体にBizRobo!活用を広げてさらなる効率化を目指す。今後はRPAの活用を通じて税理士・会計事務所業界をリードしていきたい考えだ。

Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

導入背景

慢性的な人手不足と残業時間増大の打開策にRPA導入を検討

確定申告期の膨大な単純作業が負担になっていた

2020年12月にＭＡＣミッドランド税理士法人と税理士法人ブレインパートナーが合併し、発足したＭＡＣ＆ＢＰミッドランド税理士法人。RPAの導入は、合併前に前身のブレインパートナーのグループ企業にあたるｂｐコンサルティングが主導した。

税理士業界では以前から確定申告期の慢性的な人手不足や残業時間の増大が問題となっており、同社にとっても課題だった。株式会社ｂｐコンサルティング代表取締役の佐久間隆氏がRPAの存在を知ったのは2019年春。前年度の確定申告が終わり、今後の効率化に向けた対策を模索していた時に、中部地方の税理士法人が情報交換などを行う中部会計人互助会(CAM)を通じてRPAを知り、導入の検討を開始した。

「大きな負担となっていたのはマニュアルがあれば誰でもできる転記作業や、件数の膨大な単純作業。繁忙期が限られていることなどからアルバイトの雇用なども難しく、RPAの導入で人手不足の解消と残業時間の抑制を図りたいと考えました」（佐久間氏）



（左から）松原 一穂 氏、佐久間 隆 氏

BizRobo!を選んだ理由

プログラミング未経験でも開発に熱中できる直感的な操作性が決め手に

明確な活用例や導入効果の提示によりスムーズな導入を実現

RPAツールの選定は、同社ITソリューション部チーフで、現在はロボットの開発を務める松原一穂氏が佐久間氏とともに担当し、4社のRPAツールの比較検討。「OMSクラウド（税理士事務所オフィス・マネジメント・システム）」をはじめとする既存システムとの相性、RPA開発の難易度を重視し、BizRobo! miniの導入を決定した。

「BizRobo!は他のRPAでは扱いづらかったシステムとも相性がよかった点や、操作のしやすさを評価しました。特にロボット開発は、プログラミング経験のなかった自分でも感覚的に理解できてのめり込むように楽しく取り組めましたね。心理的負担なく楽しんでロボットを開発でき、そのロボット開発が会社の業務効率化に寄与できることから、非常に前向きな気持ちで導入を進めることができました」（松原氏）

同社では2019年7月にトライアルを開始し、9月に正式導入している。迅速な導入は、当時のブレインパートナー代表社員（現・ＭＡＣ＆ＢＰミッドランド税理士法人 代表社員）の矢野厚登氏が先進的なツールに理解があったことも大きい。加えて導入にあたっての稟議書を提出する際には、実際にトライアルを活用して「DA（デスクトップ・オートメーション）」でロボットを作成し稼働の様子が視覚的にわかりやすいようにした他、初年度の対象業務を全て洗い出してスケジュールや達成計画を明確化し、費用対効果の高さを示すなどの工夫も行った。

Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

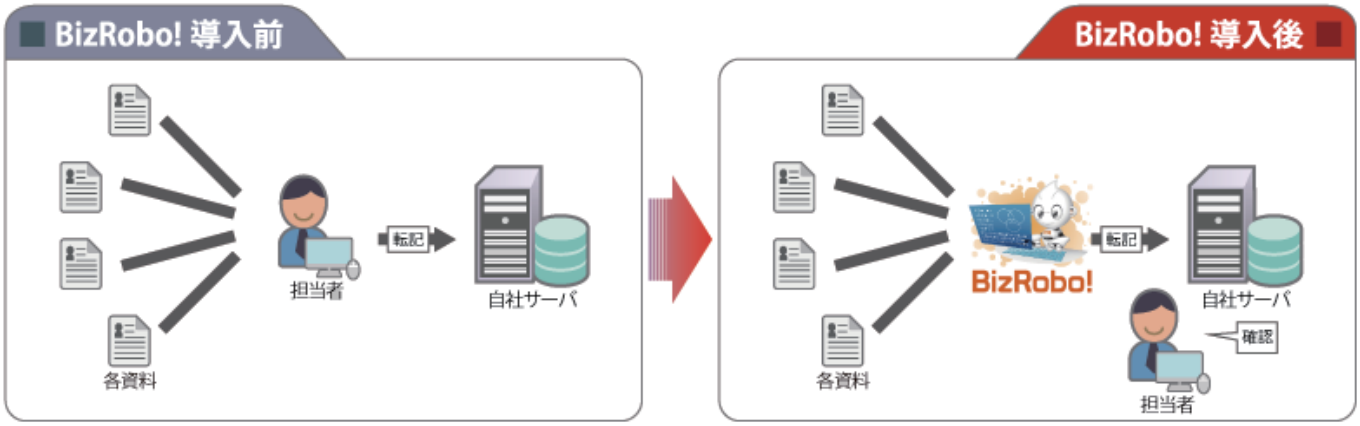
対象業務 確定申告期に発生するデータ転記やPDF出力などの単純作業にBizRobo!を活用

開発期間半日で年間200時間の削減効果を創出したロボットも

対象業務の洗い出しは佐久間氏と松原氏が担当。2人ともこれまでの経験で現場の業務内容を把握しているため、BizRobo!活用に適した業務の選定はスムーズに進んだ。最初にRPA化したのが、会計システムから税務システムへ会計データの転記を行う業務だ。忙しい確定申告期に大量に発生する業務だが、今までは会計ソフトから申告ソフトに1件ずつ手作業で入力するしか方法がなく、さらにミスを防ぐため何重ものチェックが必要で、大きな負担となっていた。現在は「①会計ソフトからデータをExcelに取り込む」「②Excelデータを青色決算書の様式に変換」「③変換したデータを申告ソフトに転記」という流れをすべてロボットに置き換え(図1)。年間100時間以上の削減を達成した。

その他には、電子申告が完了した確定申告書をクライアントに渡す様式でPDF出力する作業もRPA化。単純ながら時間のかかる作業で、ロボットへの代替により年間200時間の削減効果を達成した。「ロボット自体は半日程度で開発できたため、費用対効果が特に高い事例です」（佐久間氏）

現在、同社では3台のBizRobo!が稼働し、確定申告期など繁忙期には4～5台が稼働する。



（図１）会計システムから税務システムに会計データを転記するロボット

導入効果 労働時間の削減に加え、社員の精神的な負担を軽減

業務のRPA化を望む声が多く挙がるように

BizRobo!の導入を開始した2019年度は、データの転記とPDF出力の2つを中心に計500時間の削減を達成した。また、単純な労働時間の削減以外にも様々な効果があった。「忙しい時期には『今すぐデータの転記をしてほしい』と言われることもあります。こうした人手では難しかったニーズにも、BizRobo!によって迅速に対応できるようになりました。また、PDF出力は繁忙期が終わったあとの最終的な処理業務の一つで、忙しい業務の終了後に膨大な単純作業があるというのが大きな負担になっていました。これをRPA化したことで、社員の精神的な負担を軽減できたと感じています」（佐久間氏）

社内のBizRobo!認知も年度を重ねるごとに広がっており、今ではロボットに代替できる全ての業務でBizRobo!をフル活用している社員も増えている。自身の業務のRPA化を希望する声も多く届いており、費用対効果や部署ごとのバランスなどを考慮しながら順次導入を進めている。現在は確定申告期の業務を中心にRPA化しているが、今後は日常業務でも導入を進めていく予定だ。

Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

今後について

BizRobo!をグループ全体に広め、さらなる業務効率化を目指す

単純作業をRPA化し、よりお客様が価値を感じるサービスを提供したい

2021年度はすでに業務のRPA化が進む医業本部のみで年間2000時間の削減を目指している。また、活用部署をＭＡＣ＆ＢＰコンサルティンググループ全体に広げてさらなる効率化を目指すため、BizRobo! miniからサーバ型へのアップグレードも検討している。現在は開発・運用をそれぞれ1人が行なっているが、今後は担当者の育成を進め、グループ全体への普及や他部門への展開を促進する考えだ。

「単純業務のRPA化を進めることで、顧問先とのコミュニケーションの時間を増やすなど、お客様により価値を感じていただけるサービスを提供するための時間を確保したい。また、今後はまず社内で開発できる人間を増やし、最終的には顧問先への導入サポートも展開していきたい」と佐久間氏。松原氏も「DX化が叫ばれる中、RPAの活用を通じて税理士・会計事務所業界をリードしていきたい」と展望を語った。



松原 一穂 氏

現場の声

RPAで生産性を向上し、業界のリーディングカンパニーに

サンプルロボを真似て構造を理解、ナレッジベースも開発の参考に

「ＭＡＣ＆ＢＰコンサルティンググループは2020年12月に合併し、約200名を有する税理士法人になりました。今後は業界のリーディングカンパニーを目指し、もともと資産税、事業承継に強いＭＡＣの強み、医療に強いＢＰの強みの相乗効果を求めながら付加価値の高い会計事務所を目指していきます。その中で、我々の業務も非常に多様化・複雑化し、業務量も大幅増加しているので、RPAを活用して効率化をはかり、生産性を向上していきたいです」（矢野氏）

「RPAを導入する中で、勢いを持って導入・活用を進めていくためにはある程度トップダウンで行う必要があると感じました。組織によっても異なるとは思いますが、多くの意見を吸い上げようとすると収拾がつかなくなってしまう場合があるからです。当社には、今回のようにまずは開発・運用担当者が進め、いったん導入した上で徐々にブラッシュアップしていく進め方が、スピーディーな導入・活用展開に適していました」（佐久間氏）

「プログラミング経験のない人がロボット開発を行う際は、まず『真似る』ことから進めるといいかもしれません。私自身、当初は購入先のパートナー企業に作成いただいたサンプルロボを参考に、その構造を真似てロボットを作成し学んでいきました。もし0から学ぼうとしていたら、開発できるようになるまではもっと時間がかかっていたと思います。また、BizRobo!はナレッジベースも充実していて、今でもよく参考にしていますね。開発では、完成したロボットを稼働した際に『すごい！』『楽になった！』と喜んでいただけた時にやりがいを感じます」（松原氏）

OPEN
オープン株式会社は日本国内で長年にわたりRPA事業を展開し、業界・地域を問わずその活用ノウハウを提供しています。「ヒトの進化を共創する」ことをミッションに掲げ、BizRobo!をはじめとするRPA関連製品・サービスの提供により、個性が思う存分活かされ、楽しむ人たちが躍動する未来の実現に向かっていきます。
もっと情報を知りたい方は BizRobo! 検索
https://rpa-technologies.com
お問い合わせ:
オープン株式会社　〒105-0003 東京都港区西新橋3-3-1 KDX西新橋ビル3F　BizRobo!事務局：Tel 03-6778-0864
※記載している内容は取材日時点の情報です。
Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.